

# はじめに

この度は、弊社 PRIMERGY をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。  
本書では、ServerView ダウンロードモジュールのインストール方法について説明しています。

なお、インストールを行う前にサーバ本体の取扱説明書をよくお読みになり、サーバを使用できる状態にしておいてください。

2002 年 5 月

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat は、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、BackOffice、MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他の各製品は、各社の商標、登録商標または著作物です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LTD. 2002

表記の約束

本書では、以下の略称を使用しています。

名称	略記
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0	Windows NT WS 4.0
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000 Pro
RedHat Linux 7.2	Linux

ソフトウェア説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「Fujitsu ServerView Hints」に記載されています。ServerView をお使いになる前に、必ずお読みください。

「Fujitsu ServerView Hints」は、解凍フォルダ配下の以下のテキストを参照してください。

解凍フォルダ /SVMANAGE/JAPANESE/SV/Hints.txt

# 目 次

第 1 章 サーバ監視ツールの概要 [ServerView].....	3
1.1 異常発生のお知らせ .....	4
1.2 ハードウェアの監視 .....	5
1.3 ハードウェアの状態の表示 .....	6
第 2 章 ServerView Linux Agent/WebExtension/AlarmService のインストール .....	8
2.1 動作環境 .....	9
2.2 インストールスクリプトでの ServerView のインストール .....	10
2.2.1 インストールスクリプトの起動方法 .....	10
2.2.2 IP アドレスの入力 .....	10
2.2.3 ロケーションの入力 .....	11
2.2.4 管理者の入力 .....	11
2.2.5 RPM を実行 .....	12
2.2.6 実行結果の確認 .....	12
2.3 インストール終了後の設定 .....	13
2.3.1 httpd サービス設定ファイルの編集 .....	13
2.3.2 SNMP サービス /httpd サービスの自動起動設定 .....	13
2.3.3 Firewall の設定 .....	15
2.3.4 ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン /再起動するための設定 .....	17
2.4 インストールスクリプトのトラブルシューティング .....	19
2.5 手動での ServerView のインストール .....	23
2.6 RPM バージョンの確認 / 上書きインストール .....	29
2.6.1 RPM バージョンの確認 .....	29
2.6.2 上書きインストール .....	29
2.7 ServerView Linux Agent のアンインストール .....	29
第 3 章 ServerView Linux Agent (サーバ).....	30
3.1 ServerView Linux Agent の起動 / 停止 .....	31
3.1.1 ServerView Linux Agent の状態表示 .....	31
3.1.2 ServerView Linux Agent の起動 .....	31
3.1.3 ServerView Linux Agent の停止 .....	32

3.2 ServerView Linux Agent のログについて .....	33
<b>第 4 章 WebExtension/AlarmService (サーバ) .....</b>	<b>34</b>
4.1 WebExtension/AlarmService の起動 / 停止について .....	35
4.2 WebExtension/AlarmService の操作方法 .....	35
4.3 インストールされている WebExtension/AlarmService の動作確認 .....	35

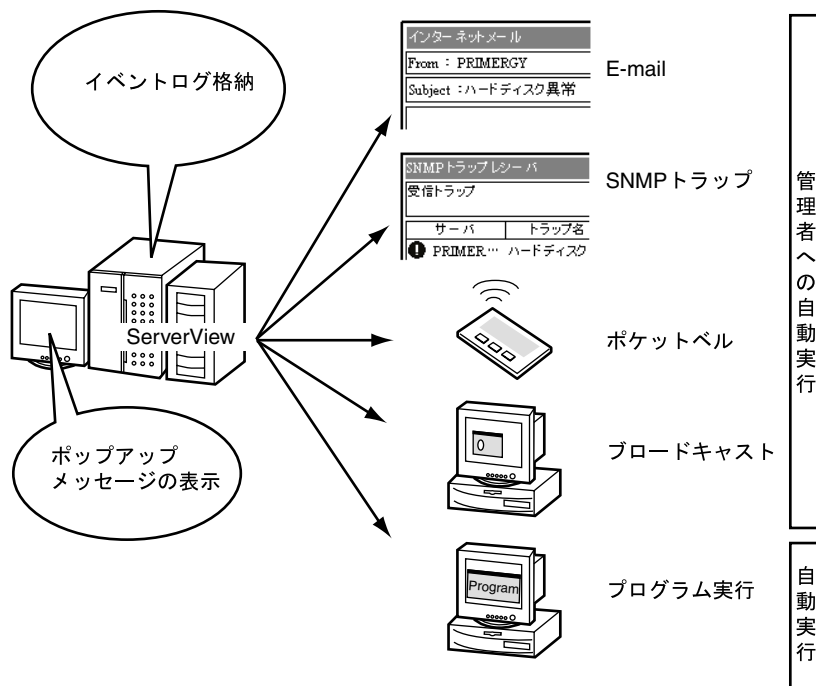
# 第 1 章 サーバ監視ツールの概要 [ServerView]

サーバまたはネットワークの管理者は、多くの管理業務をこなさなければなりません。サーバを安定稼働させるためのハードウェアの保守もその重要な業務の一つです。サーバ監視ツール「ServerView」は、管理者が管理するネットワーク上の各サーバ上でハードウェアの状態を常時監視するとともに、管理者がすべてのサーバの状態を一手に確認できるコンソールを提供します。また、万一異常が発生した場合には、早期対応が図れるように、管理者にリアルタイムに知らせてくれるソフトウェアです。本章では、ServerView の監視システムの概要について説明しています。

## 1.1 異常発生のお知らせ

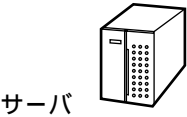
ServerView は、サーバのハードウェアの監視により異常を発見すると、リアルタイムにさまざまな方法で管理者に通知します。異常の通知方法は、次の図のとおり豊富に用意されています。サーバの管理者はどこにいてもすぐに通知を確認することができます。  
注) この機能は、ServerView Service において提供しています。

万一サーバで異常が発生すると ...

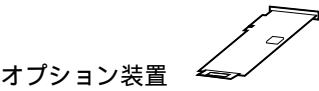


# 1.2     ハードウェアの監視

ServerView は、管理者に代わってサーバのハードウェアの状態が正常かどうかを常時監視します。サーバのハードウェアの各部からサーバに搭載されたオプション装置にいたるまで必要な監視を行います。ServerView で監視できるサーバのハードウェアおよびオプション装置は次のとおりです。



監視できるハードウェア	監視内容
電圧センサ	サーバの電圧
温度センサ	筐体内の温度
CPU	搭載 CPU 情報の表示、エラー
ファン	CPU・筐体内・電源のファン
筐体	筐体の開閉
メモリ	搭載情報の表示、エラーカウンタの表示
電源	故障



監視できるオプション装置	監視概要
オンボード SCSI に取り付けられた内蔵ハードディスクユニット	デバイス情報の表示
SCSI カード ( PG-128/129 )	カード情報の表示
LAN カード ( PG-185 )	インターネット情報の表示 イーサネット MAC 統計情報の表示

# 1.3     ハードウェアの状態の表示

---

サーバの管理者は、ServerView により監視されたサーバの現在のハードウェアの状態を、管理コンソールに表示させて確認できます。ServerView ダウンロードモジュールには次の 2 種類のソフトウェアがコンポーネントされています。

ServerView の コンポーネント	表示できる場所	役割
ServerView Linux Agent (*1)	監視対象サーバ	自サーバのみの状態を監視
ServerView Service	監視対象サーバ	自サーバのトラップデータにおいて、設定した処理を行う

\*1) サーバの監視機能のみとなっています (状態を表示するのは、管理コンソールです)。

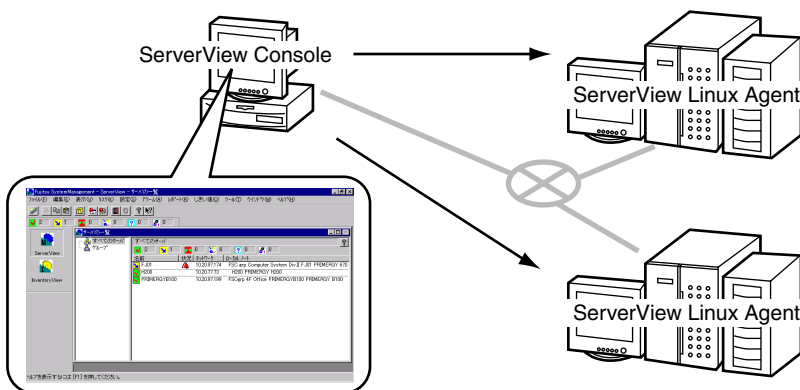
管理コンソールは Windows システムのみのサポートとなります (管理コンソールの詳細は ServerView ユーザーズガイドを参照してください)。  
ServerView で、ネットワークを管理しやすい最適な監視システムを構築するには、管理コンソールを、目的に応じてご使用いただく必要があります。



## ServerView Console（管理コンソールのみ含まれる）

管理コンソールは、任意のパソコンまたは管理サーバ上で、すべての監視対象のサーバの状態を一括して表示できます。

任意の監視対象のサーバが管理者の近くにない場合、あるいは、大規模なネットワークを管理する場合などに最適です。この管理コンソール（ServerView Console）がインストールされたパソコンは、管理端末と呼ばれます。



## 第 2 章 ServerView Linux Agent/ WebExtension/AlarmService の インストール

本章では、サーバに ServerView Linux Agent/WebExtension/AlarmService をインストール / アンインストールする方法について説明しています。

## 2.1 動作環境

ServerView Linux Agent/WebExtension/AlarmService が動作するのに必要なシステムの環境は次のとおりです。

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	128MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 50MB 以上
	ディスプレイ	SVGA ( 800 × 600 )以上の解像度 ( 推奨 : 1024 × 768 )
	LAN カード	必要 ( オンボード LAN でも可 )
	マウス	必要
	モデム	ポケットベルを使用して公衆回線経由で通信を行う場合にのみ必要です。 サポートしているモデムについては、弊社の「PRIMERGY システム構成図」をご覧ください。
ソフトウェア	OS	RedHat Linux 7.2
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	アプリケーション	Netscape Navigator/Communicator V4.78 以降
	パッケージ ( RPM )	ucd-snmp ( snmpd サービス )、apache ( httpd サービス )、gcc、make、byacc、vim-minimal、glibc、libstdc++、rpm、gawk、openssl、mod_ssl、kernel-headers
	アカウント	スーパーユーザ

## 2.2 インストールスクリプトでの ServerView のインストール

---

インストールスクリプトを利用して、ServerView のインストールおよび SNMP サービス設定ファイル (/etc/snmp/snmpd.conf) を編集できます。

*Note*

/etc/snmp/snmpd.conf は、ServerView のインストール後に手動で編集することもできます。  
手動で編集したあとは、"/etc/rc.d/init.d/snmpd restart" コマンドを実行してください。

インストールスクリプトがエラーメッセージを表示して終了した場合は、「2.4 インストールスクリプトのトラブルシューティング」( 19 ページ) を参照してください。

### 2.2.1 インストールスクリプトの起動方法

---

インストールスクリプトによるインストールは、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行して行います。

( "/tmp" 配下で ServerView ダウンロードモジュールを解凍した場合の例です )

```
# cd /tmp/Svmanage/JAPANESE
# ./inssv
```

### 2.2.2 IP アドレスの入力

---

インストールスクリプトのタイトル表示の後、IP アドレスの入力を要求されます。

SNMP トラップを送信したい IP アドレスを入力して [Enter] キーを押してください。

サーバ自身の IP アドレス (127.0.0.1) は自動的に設定されるので、ここで入力する必要はありません。

複数装置に送信したい場合は、各装置の IP アドレスを入力します。

入力した IP アドレスは、/etc/snmp/snmpd.conf に書き込まれます。

IP アドレスを入力し終わったら [e] キーを押してください。次の処理に進みます。

```
-----
ServerView install / RPM control script version VX.XLXX
Copyright (C) FUJITSU LIMITED 2002
```

```
Please input IP-addresses to where you want to send SNMP-traps.
(Note : No need to input the IP address of this server,
        it will be added automatically by the installer.)
Press "e" key to continue.
```

```
>192.168.1.10
>192.168.1.20
>e
-----
```

### 2.2.3 ロケーションの入力

---

コンピューターのロケーション（設置場所）を入力します。

入力されたロケーションは、`/etc/snmp/snmpd.conf` 内の `syslocation` 項目に書き込まれ、ServerView のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。

半角文字で 64 バイトまで入力できます。

ロケーションを入力したら [Enter] キーを押してください。次の処理に進みます。

何も入力しないで [Enter] キーを押すことによって、デフォルト値を書き込むこともできます。

```
-----
Please input a location of the server.
The specified location will be shown as a property of the server
at the ServerView console.

You can change the location of the server later,
by editing the /etc/snmp/snmpd.conf.
>(Example: computer room L200)
-----
```

### 2.2.4 管理者の入力

---

コンピューターの管理者名を入力します。

入力された管理者名は、`/etc/snmp/snmpd.conf` の `syscontact` 項目に書き込まれ、ServerView のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。

半角文字で 64 バイトまで入力できます。

管理者名を入力したら [Enter] キーを押してください。次の処理に進みます。

何も入力しないで [Enter] キーを押すことによって、デフォルト値を書き込むこともできます。

```
-----
Please input a name of the root user.
The specified name will be shown as a property of the server
at the ServerView console.

You can change the name of the root user later,
by editing the /etc/snmp/snmpd.conf.
>(Example: Your name)
-----
```

## 2.2.5 RPM を実行

---

snmpd を起動した後、ServerView Agent(eecd/agents)/WebExtension/AlarmService の RPM を実行します。

各 RPM の出力結果が表示されます。

以下は、正常時の出力結果例です。

```
-----
snmpd を起動中 :      [ OK ]

The package kernel-headers or kernel-source has to be  srvmagt-eecd の出力
installed (kernel-headers is normally installed by default).
and module compilation must succeed.

Compiling modules for 2.4.7-10smp:
cop(Ok) copa(Ok) i960(Ok) ihpci(Ok) ipmi(Ok) smbus(Ok) [ OK ]
Loading modules: smbus [ OK ]
Starting eecd[ OK ]
snmpd を停止中 : [ OK ]  srvmagt-agents の出力
snmpd を起動中 : [ OK ]
Starting agent scagt[ OK ]
Starting agent busagt[ OK ]
Starting agent hdagt[ OK ]
Starting agent mylexagt[ OK ]
Starting agent unixagt[ OK ]
Starting agent etheragt[ OK ]
Starting agent biosagt[ OK ]
Starting agent securagt[ OK ]
Starting agent statusagt[ OK ]
Starting agent invagt[ OK ]
Starting agent vvagt[ OK ]
Starting snmptrapd: [ OK ]  AlarmService の出力
Starting SVFwdServer:
Restarting srvmagt, please wait...
Restarting eecd, please wait...
-----
```

## 2.2.6 実行結果の確認

---

ServerView Agent(eecd/agents)/WebExtension/AlarmService が正常にインストールされた場合、最終行に下記の正常終了メッセージが表示されます。

```
ServerView's RPMs are installed successfully.
```

上記メッセージが表示された場合は、「2.3 インストール終了後の設定」( 13 ページ) を実施してください。

上記メッセージが表示されない場合は、「2.4 インストールスクリプトのトラブルシューティング」( 19 ページ) を参照してください。

## 2.3 インストール終了後の設定

---

インストール終了後、サーバで以下の設定をする必要があります。

- 「2.3.1 httpd サービス設定ファイルの編集」( 13 ページ)
- 「2.3.2 SNMP サービス /httpd サービスの自動起動設定」( 13 ページ)
- 「2.3.3 Firewall の設定」( 15 ページ)
- 「2.3.4 ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン / 再起動するための設定」( 17 ページ)

### 2.3.1 httpd サービス設定ファイルの編集

---

#### 1 /etc/httpd/conf/httpd.conf を編集します。

/etc/httpd/conf/httpd.conf 内の下記の項目を編集します (Linux インストール時に設定した HOST 名を記述します)。

```
----- httpd.conf -----  
ServerName h200linux  
-----
```

#### 2 httpd サービスを再起動します。

次のコマンドを入力し、httpd サービスを再起動します。

```
# /etc/rc.d/init.d/httpd restart
```

### 2.3.2 SNMP サービス /httpd サービスの自動起動設定

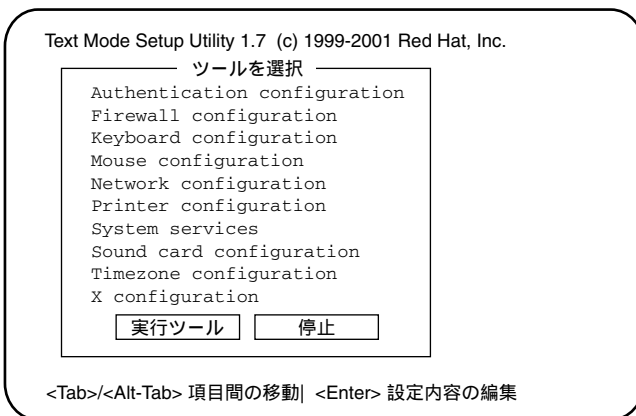
---

setup コマンドでサービスを有効にしていない場合、次にシステムを再起動したときにサービスを手動で起動しなければいけません。有効にしておけば、システム再起動時に自動でサービスが起動されます。setup コマンドでサービスを有効にする方法を次に示します。

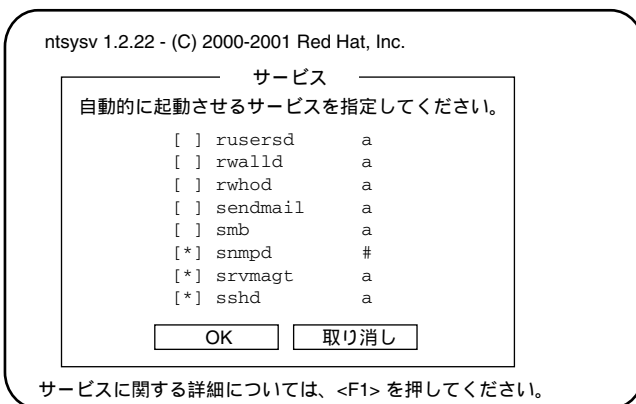
#### 1 スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/setup ( setup コマンドは RedHat 専用のコマンドです )
```

メニュー画面が表示されます。



- 2 「System services」を選択し、[ Enter ] キーを押します。  
サービス画面が表示されます。



- 3 「snmpd」および「httpd」の項目に「\*」印を付けます。  
[ / ] キーで「snmpd」項目にカーソルを合わせ、[ Space ] キーを押します。同様に、「httpd」項目にカーソルを合わせ、[ Space ] キーを押します。
- 4 サービス画面で [ Tab ] キーを使って「OK」を選択し [ Enter ] キーを押します。次に、メニュー画面で [ Tab ] キーを使って「停止」を選択し [ Enter ] キーを押し、setup を終了します。



## 2.3.3 Firewall の設定

RedHat Linux 7.1 から Firewall が標準で装備されています。インストール時に「Firewall なし」に設定できますが、ここでは Firewall を設定するときの方法を説明します。

Firewall の設定は、Linux インストール時または setup コマンドで行います。

以下に setup コマンドでの設定方法を示します。

なお、Linux インストール時と setup コマンド実行時で画面が異なりますが、設定項目は同じです。Linux インストール時の設定方法については、Redhat Linux のマニュアルおよび次の設定方法を参考にしてください。

### 1 スーパーユーザでログインし、/usr/sbin/setup を実行します。

```
# /usr/sbin/setup
```

メニュー画面が表示されます。

Text Mode Setup Utility 1.7 (c) 1999-2001 Red Hat, Inc.

—— ツールを選択 ——

- Authentication configuration
- Firewall configuration
- Keyboard configuration
- Mouse configuration
- Network configuration
- Printer configuration
- System services
- Sound card configuration
- Timezone configuration
- X configuration

<Tab>/<Alt-Tab> 項目間の移動| <Enter> 設定内容の編集

### 2 「Firewall configuration」を選択し、[ Enter ] キーを押します。 Firewall Configuration 画面が表示されます。

lokkit 0.43

(C) 2001 Red Hat, Inc.

Firewall Configuration

A firewall protects against unauthorized network intrusions. High security blocks all incoming accesses. Medium blocks access to system services (such as telnet or printing), but allows other connections. No firewall allows all connections and is not recommended.

Security Level: ( ☒ ) High ( ☐ ) Medium ( ☐ ) No firewall

OK

Customize

Cancel

<Tab>/<Alt-Tab> between elements

<Space> selects

<F12> next screen

- 3

「Security Level」を選択します。
- 「High」に ( ☒ ) 印をつけ、[ Tab ] キーで [Customize] を選択し、[ Enter ] キーを押します。
- Firewall Configuration - Customize 画面が表示されます。

lokkit 0.43

(C) 2001 Red Hat, Inc.

Firewall Configuration - Customize

You can customize your firewall in two ways. First, you can select to allow all traffic from certain network interfaces. Second, you can allow certain protocols explicitly through the firewall. Specify additional ports in the form 'service:protocol', such as 'imap:tcp'.

Trusted Devices: [ ☒ ] eth0 [ ☐ ] eth1

Allow incoming: [ ☐ ] DHCP [ ☐ ] SSH [ ☐ ] Telnet  
[ ☒ ] WWW (HTTP) [ ☐ ] Mail (SMTP) [ ☐ ] FTP  
Other ports snmp:tcp

OK

<Tab>/<Alt-Tab> between elements

<Space> selects

<F12> next screen

- 4

Firewall Configuration - Customize 画面で使用するプロトコルを指定し、そのプロトコルが Firewall の外へ出るように設定します。
- 次の 2 つのプロトコルを設定します。

プロトコル	説明
http	WebServer を立ち上げるのに必須
snmp	snmp サービスを立ち上げるのに必須

- 1 ネットワークが接続されている Trusted Devices を選択します。  
「eth0」に [\*] 印を付けます。
- 2 WWW(HTTP) を選択します。  
[\*] 印を付けます。
- 3 Other ports に「snmp:tcp」と記述します。
- 4 [ Tab ] キーで [OK] ボタンを選択し、[ Enter ] キーを押します。



その他の機能を有効にする場合、この Firewall を設定する必要がある場合があります。

- 5 Firewall Configuration 画面に戻り、[ Tab ] キーで [OK] ボタンを選択し、[ Enter ] キーを押します。

## 2.3.4 ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン / 再起動するための設定

ServerView エージェントが稼働中に、ServerView コンソールから、ASR ( Automatic Server Recovery ) 設定 ( ファン / 温度 / 再起動設定など ) や電源の投入 / 切断を行うには、管理ユーザのユーザ名とパスワードの入力が求められます。  
管理ユーザは、以下の手順で設定できます。



ServerView での管理ユーザとは、「svuser」グループに所属しているユーザです。  
ServerView をインストールスクリプトでインストールした場合、「svuser」グループは自動的に作成されます。

- 1 新規ユーザを管理ユーザとして作成します。  
スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。

```
# useradd -G svuser <ユーザ名>
# passwd <ユーザ名>
```

Note

- useradd コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。  
<ユーザ名> には、作成するユーザのユーザ名を指定します。
- passwd コマンドでは、作成したユーザのパスワードを設定します。パスワードは、確認のため、2 回入力します。  
なお、作成したユーザ名は、パスワードを設定すると有効になります。

各コマンドの詳細は、useradd(8),passwd(1) の man ページを参照してください。

## 2 既存ユーザを管理ユーザとして設定します。

設定する既存ユーザが、複数のグループに属しているかどうかをシステム管理者に確認し、次のコマンドを実行してください。

- ユーザがメイングループにのみ属している場合

```
# usermod -G svuser <ユーザ名>
```

- ユーザが複数のグループに属している場合

```
# usermod -G svuser,<所属グループ,...> <ユーザ名>
```

Note

- usermod コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。複数のグループを指定する場合は、カンマ (,) で区切って指定します。なお、以前所属していたグループをここで指定しなかった場合は、そのグループからは削除されます。所属すべきグループは、すべて指定してください。  
<ユーザ名> には、管理ユーザにするユーザ名を指定します。  
usermod コマンドの詳細については usermod(8) の man ページを参照してください。
- vigr コマンドを使用して直接グループを設定することや、GUI ツールを使用して設定を行うこともできます。詳細は vigr(8) の man ページ、RedHat のマニュアルを参照してください。

# 2.4 インストールスクリプトのトラブルシューティング

インストールスクリプトはインストールエラーを検出すると、エラーメッセージを表示して終了します。

下記の対処方法で解決しない場合は、「2.5 手動での ServerView のインストール」( 23 ページ ) を参照して、インストールスクリプトを使用しないインストールを実施してください。

エラー No.	エラーメッセージ
	原因と対処方法
1001	login user is not root! Please try again as root.
	ログインユーザがスーパーユーザではありません。 スーパーユーザでログインし直してから、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。
1002 ~ 1003	kernel version is under 2.4
	カーネルのバージョンが 2.4 以下のためインストールできません。
1004	Not supported Distribution.
	サポート対象外のディストリビューションです。
1005	Available disk space is not enough.
	空きディスク容量が不足しています。
2001 ~ 2999	**** package is not installed.
	ServerView のインストールに必須の RPM パッケージがインストールされていません。 RedHat Linux の CD-ROM から **** の RPM パッケージを再インストールした後、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。 RPM パッケージのインストール方法については、「2.5 手動での ServerView のインストール」( 23 ページ ) を参照してください。
4101	failure in "mv" command.
	Linux のシステムコマンドでエラーが発生しました。 「2.5 手動での ServerView のインストール」( 23 ページ ) を参照してインストールしてください。

エラー No.	エラーメッセージ
	原因と対処方法
4102	/etc/snmp/snmpd.conf is not exist.
	<p>SNMP サービスの設定ファイルが見つかりませんでした。 次のコマンドを実行したあと、ServerView のインストールスクリプトを実行してください ( "/tmp" 配下で ServerView ダウンロードモジュールを解凍した場合の例です )。</p> <pre># cp /tmp/Svmanage/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf</pre>
4103 ~ 4401	failure in "****" command.
	<p>Linux のシステムコマンドでエラーが発生しました。 「2.5 手動での ServerView のインストール」( 23 ページ ) を参照してインストールしてください。</p>
4402	failure in "/etc/rc.d/init.d/snmpd start" command.
	<p>snmp サービスの起動に失敗しました。 /etc/rc.d/init.d/snmpd ファイルが存在するかどうか確認してください。 存在しない場合は、RedHat Linux の CD-ROM から ucd-snmp の RPM パッケージを再インストールしたあと、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。 RPM パッケージのインストール方法については、「2.5 手動での ServerView のインストール」( 23 ページ ) を参照してください。</p>
6001	"srvmagt-eeecd" installation failed.
	<p>ServerView Agent(srvmagt-eeecd) のインストールに失敗しました。 次のコマンドを実行して srvmagt-eeecd のインストールを再試行してください ( "/tmp" 配下で ServerView ダウンロードモジュールを解凍した場合の例です )。</p> <pre># rpm -i /tmp/Svmanage/Agent/srvmagt-eeecd-X.XX-XX.redhat.rpm ( X.XX-XX はバージョンを示します。 ) # cd / # /etc/rc.d/init.d/eeecd restart</pre>

エラー No.	エラーメッセージ
	原因と対処方法
6002	"srvmagt-agents" installation failed.
	<p>ServerView Agent(srvmagt-agents) のインストールに失敗しました。 次のコマンドを実行して srvmagt-agents のインストールを再試行してください ( "/tmp" 配下で ServerView ダウンロードモジュールを解凍した場合の例です )</p> <pre># rpm -i /tmp/Svmanage/Agent/srvmagt-agents-X.XX-XX.redhat.rpm (X.XX-XX はバージョンを示します。) # groupadd svuser # cp /tmp/Svmanage/config /etc/srvmagt/config # chmod 644 /etc/srvmagt/config # cd / # /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart</pre>
6003	"AlarmService" installation failed.
	<p>AlarmService のインストールに失敗しました。 次のコマンドを実行して AlarmService のインストールを再試行してください ( "/tmp" 配下で ServerView ダウンロードモジュールを解凍した場合の例です )</p> <pre># cd /tmp/Svmanage/JAPANESE/Sv/ # ./InstallAlarmService AlarmServiceStarter-X.X-X.i386.rpm (X.X-X はバージョンを示します。)</pre>
6004	"WebExtension" installation failed.
	<p>WebExtension のインストールに失敗しました。 次のコマンドを実行して WebExtension のインストールを再試行してください ( "/tmp" 配下で ServerView ダウンロードモジュールを解凍した場合の例です )</p> <pre># cd /tmp/Svmanage/JAPANESE/WebExt/ # ./InstallWebExtension WebExtensionStarter-X.X-X.i386.rpm (X.X-X はバージョンを示します。)</pre>
7001	failure in "groupadd" command.
	<p>グループの作成に失敗しました。 次のコマンドを実行してください。</p> <pre># groupadd svuser</pre>

エラー No.	エラーメッセージ
	原因と対処方法
7002	failure in copy default config file.
	<p>ServerView Agent のデフォルト設定ファイルのコピーに失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行してください ( "/tmp" 配下で ServerView ダウンロードモジュールを解凍した場合の例です )。</p> <pre># cp /tmp/Svmanage/config /etc/srvmagt/config # chmod 644 /etc/srvmagt/config # cd / # /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart</pre>
7003	failure in "chmod" command.
	<p>/etc/srvmagt/config ファイルの権限の変更に失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行してください。</p> <pre>#chmod 644 /etc/srvmagt/config</pre>
7004	failure in "cd /" command.
	<p>カレントディレクトリの変更に失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行してください。</p> <pre># cd / # /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart</pre>
7005	failure in "/etc/rc.d/init.d/srvmagt restart" command.
	<p>ServerView Agent(srvmagt-agents) の再起動に失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行してください。</p> <pre># cd / # /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart</pre>
7006	failure in "cd /" command.
	<p>カレントディレクトリの変更に失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行してください。</p> <pre># cd / # /etc/rc.d/init.d/eecd restart</pre>
7007	failure in "/etc/rc.d/init.d/eecd restart" command.
	<p>ServerView Agent(srvmagt-eecd) の再起動に失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行してください。</p> <pre># cd / # /etc/rc.d/init.d/eecd restart</pre>



## 2.5 手動での ServerView のインストール

---

インストールスクリプトでのインストールができない場合、スーパーユーザでログインして手動でインストールする必要があります。

以下に、手動での ServerView のインストール手順を示します。

### 1 動作環境を確認します。

「2.1 動作環境」( 9 ページ) を参照して、インストールの条件を満たしていることを確認してください。

### 2 パッケージ (RPM) のインストール状態を確認します。

次のコマンドを実行して、ServerView が動作するのに必要なパッケージ (RPM) のインストール状態を確認します。

```
# rpm -q ucd-snmp
# rpm -q apache
# rpm -q gcc
# rpm -q make
# rpm -q byacc
# rpm -q vim-minimal
# rpm -q glibc
# rpm -q libstdc++
# rpm -q rpm
# rpm -q gawk
# rpm -q openssl
# rpm -q mod_ssl
# rpm -q kernel-headers
```

RPM がインストールされている場合は、"RPM 名-XX.XX-XX" が表示されます (X.XX-XX はバージョンを示します)。

インストールされていない RPM は、下記の例を参考にインストールしてください。

 Note

次の RPM インストール方法は一例です。RedHat Linux のインストール方法によっては、"エラー: 依存性の欠如:" が発生する場合があります。その場合には、エラーメッセージに従い、必要とされる RPM を先にインストールしてください。

RPM	インストール方法
ucd-snmp	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/ucd-snmp-4.2.1-7.i386.rpm</pre>
apache	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/mm-1.1.3-1.i386.rpm # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/apache-1.3.20-16.i386.rpm</pre>
gcc	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/cpp-2.96-98.i386.rpm # eject</pre> <p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-2 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/binutils-2.11.90.0.8-9.i386.rpm # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/glibc-devel-2.2.4-13.i386.rpm # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/gcc-2.96-98.i386.rpm</pre>
make	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/make-3.79.1-8.i386.rpm</pre>
byacc	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-2 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/byacc-1.9-19.i386.rpm</pre>
vim-minimal	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/vim-minimal-5.8-7.i386.rpm</pre>
glibc	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/glibc-2.2.4-13.i386.rpm</pre>

RPM	インストール方法
libstdc++	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/libstdc++-2.96-98.i386.rpm
rpm	rpm パッケージ以外からインストールする必要があります。 RedHat Linux の開発元へお問い合わせください。
gawk	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/gawk-3.1.0-3.i386.rpm
openssl	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/openssl-0.9.6b-8.i386.rpm
mod_ssl	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/mod_ssl-2.8.4-9.i386.rpm
kernel-headers	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/kernel-headers-2.4.7-10.i386.rpm

### 3 /etc/snmp/snmpd.conf のバックアップファイルを作成します。 次のコマンドを実行します。

```
# ls /etc/snmp/  
snmpd.conf
```


snmpd.conf.org が存在しない場合のみ、次のコマンドを実行してください。

```
# cp /etc/snmp/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf.org
```

- 4 解凍フォルダ配下から /etc/snmp/snmpd.conf をコピーします。  
デフォルト値を設定済みの /etc/snmp/snmpd.conf を、ServerView の解凍フォルダ配下からコピーします。  
次のコマンドを実行します ( "/tmp" 配下で ServerView ダウンロードモジュールを解凍した場合の例です )

```
# cp /tmp/Svmanage/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf
# chmod 644 /etc/snmp/snmpd.conf
```

- 5 /etc/snmp/snmpd.conf を編集します。  
/etc/snmp/snmpd.conf 内の次の項目を編集します。



/etc/snmp/snmpd.conf の変更を反映するには、"/etc/rc.d/init.d/snmpd restart" コマンドを実行する必要があります。

なお、snmpd.conf の詳細は、/etc/snmp/snmpd.conf 内のコメントを参照してください。

項目	設定内容
com2sec	com2sec 項目に下記の設定例を追加します。  設定例 : com2sec svSec default public com2sec svSec localhost public com2sec svSec xxx public  : xxx には以下のいずれかの設定値を代入してください。 default : すべてのサーバ / クライアントからのアクセスを許可します。 localhost : 自サーバのみアクセスを許可します。 <IP アドレス> : 特定のサーバ / クライアントからのアクセスを許可します。 <subnet>/<netmask> : 特定のネットワークからのアクセスを許可します。
trapsink	trapsink 項目に下記の設定例を追加します。  設定例 : trapsink 127.0.0.1 public trapsink <IP アドレス> public  SNMP トラップを送信したい IP アドレスを指定します。 サーバ自身の IP アドレス (127.0.0.1) は既に設定されているので、改めて記述する必要はありません。 複数装置に送信したい場合は、同じ記述で IP アドレスが異なるものを複数行記述します。

項目	設定内容
syslocation	<p>syslocation 項目に下記の設定例を追加します。</p> <p>設定例：syslocation computer room L200</p> <p>コンピュータのロケーション（設置場所）を半角文字で入力します。</p> <p>ServerView のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。</p>
syscontact	<p>syscontact 項目に下記の設定例を追加します。</p> <p>設定例：syscontact Your name</p> <p>コンピュータの管理者名を半角文字で入力します。</p> <p>ServerView のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。</p>

## 6 RPM コマンドを実行します。

srvmagt-eeecd/srvmagt-agents/AlarmService/WebExtension の順番でインストールします（"/tmp" 配下で ServerView ダウンロードモジュールを解凍した場合の例です）。

```
# /etc/rc.d/init.d/snmpd restart
# rpm -i /tmp/Svmanage/Agent/srvmagt-eeecd-X.XX-XX.redhat.rpm
# rpm -i /tmp/Svmanage/Agent/srvmagt-agents-X.XX-XX.redhat.rpm
# cd /tmp/Svmanage/JAPANESE/Sv/
# ./InstallAlarmService AlarmServiceStarter-X.X-X.i386.rpm
# cd /tmp/Svmanage/JAPANESE/WebExt/
# ./InstallWebExtension WebExtensionStarter-X.X-X.i386.rpm
（X.XX-XX はバージョンを示します。）
```

## 7 RPM コマンドの実行結果を確認します。

正常にインストールできたかどうかを確認するため、次のコマンドを実行します。RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q srvmagt-eeecd
srvmagt-eeecd-X.XX-XX

# rpm -q srvmagt-agents
srvmagt-agents-X.XX-XX

# rpm -q AlarmService
AlarmService-X.X-X

# rpm -q WebExtension
WebExtension-X.X-X
（X.XX-XX はバージョンを示します。）
```

## 8 ServerView Agent のデフォルト設定を行います。

次のコマンドを実行します（"/tmp" 配下で ServerView ダウンロードモジュールを解凍した場合の例です）。

```
# groupadd svuser
# cp /tmp/Svmanage/config /etc/srvmagt/config
# chmod 644 /etc/srvmagt/config
# cd /
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart
# /etc/rc.d/init.d/eecd restart
```

## 9 インストール終了後の設定を行います。

「2.3 インストール終了後の設定」（ 13 ページ）を実施してください。

## 2.6 RPM バージョンの確認 / 上書きインストール

---

ここでは、RPM バージョンの確認、および上書きインストールについて説明します。

### 2.6.1 RPM バージョンの確認

---

インストールされている RPM パッケージのバージョンは、次のコマンドを実行して確認できます。

```
# rpm -q srvmagt-eecd
srvmagt-eecd-X.XX-XX

# rpm -q srvmagt-agents
srvmagt-agents-X.XX-XX

# rpm -q AlarmService
AlarmService-X.X-X

# rpm -q WebExtension
WebExtension-X.X-X
(X.XX-XX はバージョンを示します。)
```

### 2.6.2 上書きインストール

---

バージョンの新しい RPM パッケージが配布された場合の上書きインストールは、スーパーユーザでログインして次のコマンドを実行して行います。

```
# rpm -U srvmagt-eecd-xx.xx-xx.redhat.rpm
# rpm -U srvmagt-agents-xx.xx-xx.redhat.rpm
# ./InstallAlarmService -upgrade AlarmServiceStarter-x.x-x.i386.rpm
# ./InstallWebExtension -upgrade WebExtensionStarter-x.x-x.i386.rpm
(X.XX-XX はバージョンを示します。)
```

```
# /etc/rc.d/init.d/eecd start
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt start
```

## 2.7 ServerView Linux Agent のアンインストール

---

アンインストールは、スーパーユーザでログインして次のコマンドを実行して行います。

```
# rpm -e WebExtension
# rpm -e AlarmService
# rpm -e srvmagt-agents
# rpm -e srvmagt-eecd
```

## 第 3 章      ServerView Linux Agent (サーバ)

本章では、ServerView Linux Agent について説明しています。



## 3.1 ServerView Linux Agent の起動 / 停止

---

ここでは、ServerView Linux Agent の起動と停止に関して説明します。

### 3.1.1 ServerView Linux Agent の状態表示

---

ServerView Linux Agent の状態を知りたい場合は、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。なお、出力結果は例です。

```
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt status
Running agents: sc bus hd mylex unix ether bios secur status
inv vv
# /etc/rc.d/init.d/eeecd status
eeecd (pid 2085 2084 2059 1980 1979 1978 1977 1976 1975 1974
1973 1972 1971 1967 1965 1964 1963 1962) is running...
```

### 3.1.2 ServerView Linux Agent の起動

---

ServerView Linux Agent は、サーバ起動時に自動的に起動されます。

*Note*

ServerView Linux Agent を起動する場合は、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。

```
# /etc/rc.d/init.d/eeecd start
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt start
```

/etc/rc.d/init.d/srvmagt が起動できない場合は、SNMP サービスの状態を確認し、SNMP サービスが停止していたら起動してください。

```
# /etc/rc.d/init.d/snmpd status
# /etc/rc.d/init.d/snmpd start
```

### 3.1.3 ServerView Linux Agent の停止

---

ServerView Linux Agent を停止する場合は、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。なお、出力結果は例です。

```
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt stop
Stopping agent scagt      [ OK ]
Stopping agent busagt     [ OK ]
Stopping agent hdagt      [ OK ]
Stopping agent mylexagt   [ OK ]
Stopping agent unixagt    [ OK ]
Stopping agent etheragt   [ OK ]
Stopping agent biosagt    [ OK ]
Stopping agent securagt   [ OK ]
Stopping agent statusagt  [ OK ]
Stopping agent invagt     [ OK ]
Stopping agent vvagt      [ OK ]

# /etc/rc.d/init.d/eecd stop
Shutting down eecd: TERM [ OK ]
```

## 3.2 ServerView Linux Agent のログについて

---

ServerView Linux Agent 起動中のログが、/var/log に log.xxxx という名前で格納されます。ただし、これらのログは ServerView Linux Agent を再起動するとクリアされるので注意してください。

以下に、ログの例を示します。

```
-rw-r--r-- 1 root root 194 8 月 23 13:25 /var/log/log.biosagt
-rw-r--r-- 1 root root 193 8 月 23 13:25 /var/log/log.busagt
-rw-r--r-- 1 root root 30 8 月 23 13:25 /var/log/log.eecd
-rw-r--r-- 1 root root 195 8 月 23 13:25 /var/log/log.etheragt
-rw-r--r-- 1 root root 191 8 月 23 13:25 /var/log/log.hdagt
-rw-r--r-- 1 root root 193 8 月 23 13:25 /var/log/log.invagt
-rw-r--r-- 1 root root 268 8 月 23 13:25 /var/log/log.mylexagt
-rw-r--r-- 1 root root 257 8 月 23 13:25 /var/log/log.scagt
-rw-r--r-- 1 root root 194 8 月 23 13:25 /var/log/log.securagt
-rw-r--r-- 1 root root 195 8 月 23 13:25 /var/log/log.statusagt
-rw-r--r-- 1 root root 193 8 月 23 13:25 /var/log/log.unixagt
-rw-r--r-- 1 root root 280 8 月 23 13:26 /var/log/log.vvagt
```

## 第 4 章      WebExtension/AlarmService (サーバ)

本章では、サーバ管理クライアント機能を WEB ベースで提供する WebExtension についての説明および、SNMP トラップの管理や、トラップをトリガにしたアクションを行う AlarmService について説明しています。

WebExtension/AlarmService は、Linux のみの環境を構築する場合にどれか 1 台のサーバにインストールすることにより、他のサーバの状態も監視することができます。

## 4.1 WebExtension/AlarmService の起動 / 停止について

---

WebExtension/AlarmService は、httpd サービスとして動作しますので、個別に起動 / 停止を行うことはできません。

## 4.2 WebExtension/AlarmService の操作方法

---

ブラウザを使用して、WebExtension/AlarmService をインストールした <サーバ> に下記のとおり接続します。

```
http://< サーバの IP アドレス >/sv_www.html  
http://< サーバ名 >/sv_www.html
```

WebExtension/AlarmService の操作方法については、ServerView ユーザーズガイドおよび WebExtension ユーザーズガイドを参照してください。

各マニュアルは、ServerView の CD-ROM 内の以下のフォルダにあります。

```
<CD-ROM ドライブ>/SVMANAGE/JAPANESE/MANUAL/
```

## 4.3 インストールされている WebExtension/ AlarmService の動作確認

---

インストールされている WebExtension/AlarmService の動作状況は、次のコマンドを実行して確認できます。

```
# /etc/rc.d/init.d/sv_fwdserver status  
snmptrapd (pid xxxx) を実行中 ...
```